

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/03/01

欧州債務問題は一服したが・・・

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	円の動向がカギに 予想レンジ: 104.00 ~ 111.50円	2-3
ユーロ/ドル	➡	もみ合い相場に移行か 予想レンジ: 1.2850 ~ 1.3600 ドル	4-5
ポンド/円	➡	「日本の要因」が剥落すると・・・ 予想レンジ: 125.50 ~ 134.00 円	6-7
ポンド/ドル	➡	ユーロ/ドル睨みの相場へ 予想レンジ: 1.5650 ~ 1.6200 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



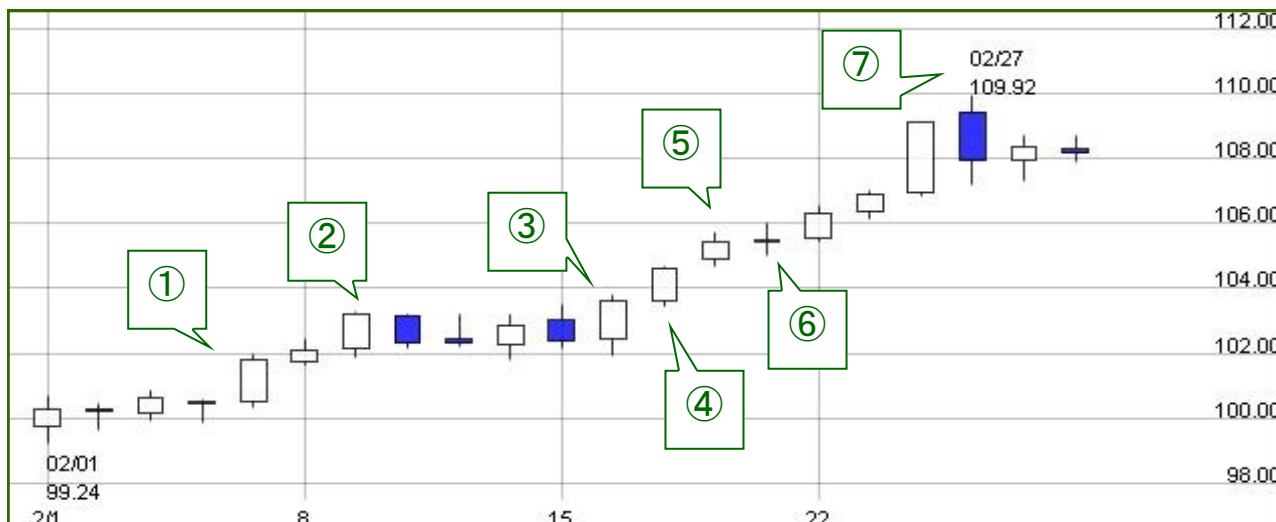
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	99.77円	109.92円	99.24円	108.16円



①	7日、当初の期限である6日からこの日に先送りされた歳出削減策に関するギリシャ連立与党各党の合意(ギリシャ向け第2次支援の条件)について「ギリシャが最終文書の作成を進めている」と報じられた事を受けてユーロの買戻しが活発化すると、ユーロ/円は101.98円まで1円以上上昇した。
②	9日、欧州中銀(ECB)理事会で政策金利を1.00%に据え置いた(利下げしなかった)事を受けてユーロが上昇。その後、ドラギECB総裁が理事会後の記者会見で、資金供給オペの適格担保拡大を発表するとユーロは一段高となった。さらに、ギリシャのパパデモス首相が、連立与党内の協議が難航した事からこの日まで最終合意が出来なかった歳出削減策について正式に合意した事を発表すると、ユーロ/円は103円台を回復した。
③	16日、ユーロ圏筋の話として「ユーロ圏財務相は20日の会合でギリシャ第2次支援を承認する見込み」と伝わると、ユーロが上昇。その後、米新規失業保険申請件数や米1月住宅着工件数が予想以上の強い結果となった事を好感して、NYダウ平均株価が3年9カ月ぶりの高値まで上昇するとユーロ/円は103円台後半まで上値を伸ばした。
④	17日、イタリアのモンティ首相がドイツ及びギリシャ首相との電話会談後に「ギリシャ支援は20日に合意できる」との見解を示した事をきっかけにユーロが上昇。NY市場終盤には、ドル/円が昨年10月の介入時高値を更新して79.60円台まで上昇した事につれてユーロ/円は104.65円まで上値を伸ばした。
⑤	20日、前週末18日に、中国当局が預金準備率を0.50%引き下げた事や、この日発表される本邦1月貿易収支が大幅な赤字を計上するとの思惑から円売りが進んだ事を受けてユーロ/円は一時105円台後半まで上昇した。
⑥	21日、前日からギリシャ支援協議が続けられていたユーロ圏財務相会合が終了し、1300億ユーロの資金支援の承認とギリシャ国債を保有する民間部門の損失負担割合を50%から53.5%に引き上げる事で合意したと発表すると、ユーロ/円は106.00円まで上昇したが、欧州株が材料出尽くし感から下落するとユーロ/円も105円ちょうど付近まで反落した。
⑦	27日、前週末のNY市場終盤に、WTI原油先物価格がイラン情勢をめぐる懸念から昨年5月以来となる109ドル台に上昇した事やG20財務相会合後の会見で中国人民銀行の周小川総裁が「中国は国際通貨基金(IMF)の資金枠増強で役割を果たす」などと発言した事を受けてユーロ/円は109.92円の高値を付けた。しかし、その後は、G20財務相会議で国際通貨基金(IMF)の財源強化が見送られた事などから主要国株価が軒並み軟調に推移すると、ユーロ/円は107.19円まで大幅反落となった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/JPY

今月のポイント

2月のユーロ/円相場は99.24円～109.92円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは8.5%の大幅上昇（ユーロ高・円安）となった。2月のユーロ/ドル相場の上昇率が1.9%であった事からも、ユーロ高が主導する形ではなく、本邦経常収支の悪化観測や日銀の緩和姿勢強化を受けて円安が主導する形でユーロ/円が上昇したと言える。

2月20日に行われたユーロ圏財務相会合でギリシャ向け第2次支援が正式に承認された事で、欧州債務問題には一服感が出ているが、今後、ギリシャが支援獲得のために約束した緊縮財政政策を遂行できるかについての不安はくすぶっており、積極的にユーロを買いあがる状況ではなさそうだ。そうなると3月も、円の動向がユーロ/円相場を左右すると見られる。足元で円安が進んだ要因は、貿易赤字の拡大に伴う経常収支の悪化観測と日銀による予想外の追加金融緩和であった。この傾向を確認する意味で3月は、12-13日の日銀金融政策決定会合や22日の2月通関ベース貿易収支が注目される。

また、ユーロ圏では8日のECB理事会で、政策金利が据え置かれる（利下げしない）との見方が強まっており、この観測がユーロを下支えた面もある。ドラギ総裁の会見内容とともに政策金利の発表も注目されよう。その他、リセッション入りが懸念されたドイツ経済が比較的堅調を維持している事もユーロをサポートしていると見られる。13日の独3月ZEW景況感調査や26日の独3月IFO景況指数の結果にも注目しておきたい。（神田）

（予想レンジ：104.00～111.50円）

今月の注目材料

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	ユーロ圏首脳会議	3/13(火)	3月独ZEW景況感調査
	2月米ISM製造業景況指数		2月米小売売上高
3/2(金)	EU首脳会議		米FOMC政策金利発表
3/5(月)	1月ユーロ圏小売売上高	3/20(火)	2月米住宅着工件数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/22(木)	2月日本通関ベース貿易収支
3/8(木)	1月日本経常収支		3月ユーロ圏消費者信頼感・速報
	1月独鉱工業生産	3/26(月)	3月独IFO景況指数
	欧州中銀政策金利発表	3/27(火)	3月米消費者信頼感指数
3/9(金)	2月中国消費者物価指数	3/28(水)	3月独消費者物価指数・速報
	2月米雇用統計	3/30(金)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報
3/13(火)	日銀金融政策決定会合(12日～)		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.3082ドル	1.3486ドル	1.2974ドル	1.3326ドル



①	7日、当初の期限である6日からこの日に先送りされた歳出削減策に関するギリシャ連立与党各党の合意(ギリシャ向け第2次支援の条件)について「ギリシャが最終文書の作成を進めている」と報じられるとユーロの買戻しが活発化し、ユーロ/ドルは1.3270ドルまで200ポイント近く上昇した。
②	9日、欧州中銀(ECB)理事会で政策金利を1.00%に据え置いた(利下げしなかった)事を受けてユーロが上昇。その後、ドラギECB総裁が理事会後の記者会見で、資金供給オペの適格担保拡大を発表するとユーロは一段高となった。さらに、ギリシャのパパデモス首相が、連立与党内の協議が難航した事からこの日まで最終合意が出来なかった歳出削減策について、正式に合意した事を発表すると、ユーロ/ドルは1.3322ドルまで上昇した。
③	16日、前日に「ユーロ圏当局者はギリシャ支援の一部もしくは全ての延期を検討している」と報じられた事を嫌気したユーロ売りが続き、ユーロ/ドルは一時1.30ドルを割り込んだ。しかしその後、ユーロ圏筋の話として「ユーロ圏財務相は20日の会合でギリシャ第2次支援を承認する見込み」と伝わると反発。さらに、米新規失業保険申請件数(34.8万件、予想36.5万件)や米1月住宅着工件数(69.9万件、予想67.5万件)が予想以上の強い結果となった事を好感して、NYダウ平均株価が3年9カ月ぶり高値まで上昇するとユーロ/ドルは1.3159ドルまで上値を伸ばした。
④	20日、前週末18日に、中国当局が預金準備率を0.50%引き下げた事などを好感して欧州株が上昇する中、ショイブレ独財務相が「ギリシャ向け第2次支援協議は合意すると期待している」などと述べると、ユーロ/ドルは1.3276ドルまで上昇した。
⑤	21日、前日からギリシャ支援協議が続けられていたユーロ圏財務相会合が終了し、1300億ユーロの資金支援の承認とギリシャ国債を保有する民間部門の損失負担割合を50%から53.5%に引き上げる事で合意したと発表すると、ユーロ/ドルは1.3293ドルまで上伸したが、その後、材料出尽くし感やギリシャの緊縮策遂行に対する不透明感などから欧州株が下落すると、1.3187ドルまで軟化した。
⑥	29日、ECBによる3年物資金供給オペで、前回の落札額(4890億ユーロ)や事前予想(5000億ユーロ)を上回る5295億3100万ユーロが落札された事に市場はユーロ売りで反応した。さらにその後、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が議会証言で「労働市場にポジティブな動きが見られる」などと発言し、追加緩和には言及しなかった事を受けて、米長期金利の上昇とともにドルが買われると、ユーロ/ドルは1.3315ドルまで下落した。

EUR/USD

今月のポイント

2月のユーロ/ドル相場は1.2974ドル～1.3486ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.9%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。2月20日のユーロ圏財務相会合で、ギリシャ向け第2次支援が正式に承認された事を受けて欧州債務問題に対する過度の懸念は後退したため、ユーロは底堅く推移した。しかし、ギリシャが、欧州連合(EU)や国際通貨基金(IMF)との約束どおりに緊縮策を遂行できるのかについては不透明と言わざるを得ない。4月に行われる同国の総選挙の結果も懸念される(緊縮策に誓約書を書いた連立与党は惨敗が予想されている)。こうした中では、ユーロが上値を伸ばす事は考えにくいと言えるだろう。

足元で台頭している米国景気の回復観測が、今以上に高まるようだとユーロ安・ドル高が進む可能性もあるが、米国でも連邦公開市場委員会(FOMC)が2014年終盤まではゼロ金利を続ける可能性が高いとしている中で、金利上昇を伴った本格的なドルの上昇は考えづらい。3月のユーロ/ドルは2月に作ったレンジを大きく逸脱する事なく、もみ合う展開が予想される。(神田)

(予想レンジ:1.2850-1.3600ドル)

今月の注目材料

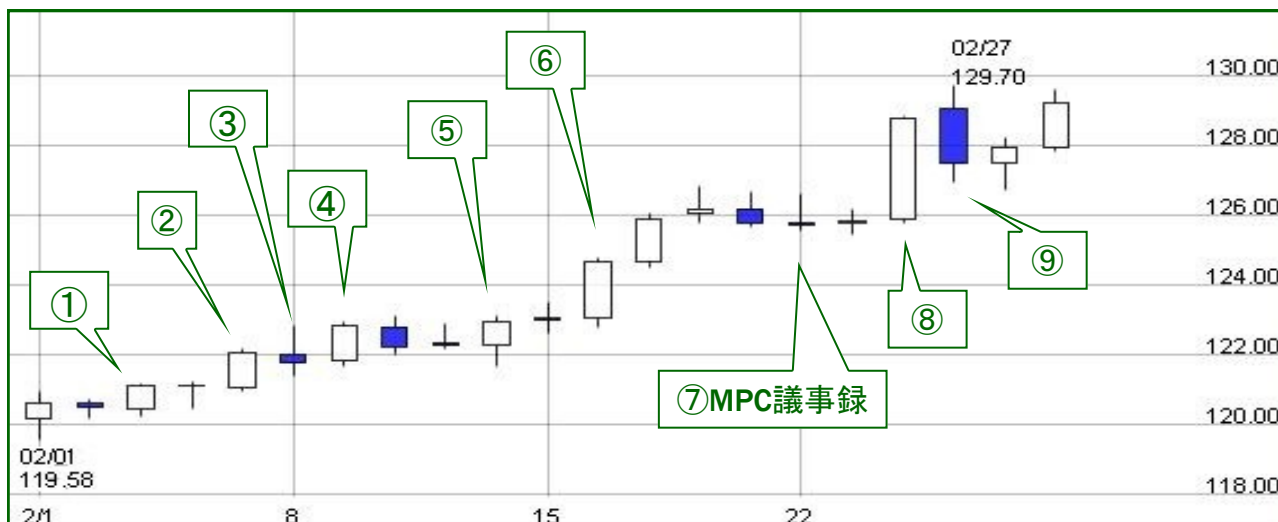
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	ユーロ圏首脳会議	3/13(火)	2月米小売売上高
	2月米ISM製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
3/2(金)	EU首脳会議	3/16(金)	2月米鉱工業生産
3/5(月)	1月ユーロ圏小売売上高	3/20(火)	2月米住宅着工件数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/21(水)	2月米中古住宅販売件数
3/7(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/22(木)	3月ユーロ圏消費者信頼感・速報
3/8(木)	1月独鉱工業生産	3/23(金)	2月米新築住宅販売件数
	欧州中銀政策金利発表	3/26(月)	3月独IFO景況指数
3/9(金)	2月中国消費者物価指数	3/27(火)	3月米消費者信頼感指数
	2月米雇用統計	3/28(水)	3月独消費者物価指数・速報
3/13(火)	3月独ZEW景況感調査	3/30(金)	3月ユーロ圏消費者物価指数・速報

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	120.17円	129.70円	119.58円	129.21円



①	3日、欧州株の堅調推移や英1月PMIサービス業が56.0と予想(53.3)を上回ったことを受け、ポンド/円は上昇。その後、米1月雇用統計が良好な結果だったことや、一部で「欧州中銀(ECB)はギリシャの第2次支援を増強するための保有債券の活用」を背景に米国株が上昇すると、ポンド/円は一段高となった。
②	7日、「ギリシャは救済策に関する合意文書草案の最終稿の作成を進めている」「ギリシャ連立与党の協議終了後に融資の詳細を発表」との一部報道を受けてユーロ/円が上昇すると、ポンド/円も連れ高した。
③	8日、英中銀(BOE)が9日の金融政策委員会(MPC)にて市場予想(500億ポンド)よりも大幅に資産購入枠を拡大するとの観測が広がり、ポンドは下落した。
④	9日、一部で750億ポンドの資産購入枠拡大観測がある中、BOEが大方の予想通り500億ポンドの拡大を発表すると、122.95円までポンド高が進行した。しかし、欧州中銀の理事会後のドラギ総裁の会見にて資金供給オペの適格担保の拡大を発表し、ユーロ/円が値を下げると、ポンド/円も連れ安した。
⑤	14日、格付け会社ムーディーズがイタリア、スペインなど6カ国を格下げした上、フランスや英国など3カ国の格付け見通しを引き下げユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れ安。しかし、日銀が長期国債購入枠を10兆円拡大するという予想外の追加緩和を発表すると、円売りが強まり、反発した。
⑥	16日、米新規失業保険申請件数や米1月住宅着工件数が予想より良好な結果になると、NYダウ先物が上昇。これを受けてポンドも上昇した。ギリシャ政府筋から「ギリシャと国際支援機関は支援に必要な約3億2500万ユーロの歳出削減の具体策で合意した」と伝わったことも、この流れに拍車を掛けた。
⑦	22日、BOEが発表した金融政策委員会(MPC)議事録に置いて、決定された500億ポンドの資産購入枠拡大について、9人のメンバー中2名が750億ポンド拡大すべきと主張して反対票を投じていたことが明らかになると、追加緩和の思惑が台頭し、ポンドは一時急落した。
⑧	24日、朝からドル/円の上昇にポンド/円は連れ高。さらに欧州の株高や、ギリシャ閣議で同国債務交換プログラムが承認されたこと、米2月シガン大消費者信頼感指数や米1月新築住宅販売件数が市場予想を上回り米国株が堅調に推移すると、リスク志向が高まり、ポンドは上値を追う展開となった。
⑨	27日、早朝に仕掛け的な円売りによって129.70円まで上昇。ただ、本邦2月上旬の貿易収支が黒字だった事が発表され、ドル/円が失速すると、ポンド/円も反落。さらに、ムーディーズが東京市場中に「ギリシャのデフォルトリスクは依然高い」との見解を示したこと、NY市場で格付け会社S&Pが欧州金融安定基金(EFSF)債の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたことを背景にユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れ安した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

2月のポンド/円相場は119.58～129.70円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約7.6%の上昇(ポンド高・円安)となった。この月のポンド相場もメインは欧州の債務問題によって動くユーロに連れる動きだったが、ポンド/円については日本の貿易赤字や日銀による予想外の追加緩和を背景とする円売りの影響を大きく受け、大幅高となった。英国の資産購入枠拡大や追加緩和観測等が重石になる場面もあったが、日本側の要因がより強めに材料視されるのは珍しいと言える。

3月の英国の金融政策は据え置きの見通しだ。一方、日本についてもこれ以上の追加緩和がすぐに行われる公算は小さく、引き続き貿易赤字に注目していく流れになりそうだ。ただ、これに関しても2月ほど相場に与えるインパクトは大きくはならないと見ている。そうなってくると、ポンド/円相場の方向感はややユーロ/円頼みとなる可能性が高い。欧州債務問題についてはギリシャの債務交換(期限:7日)が目標参加率(90%)を達成して同国債の大量償還(14日)を通過するまで、予断を許さない。また、これらを無事通過しても他の問題国へ目が向くことも考えられる。引き続き、この件に関する報道や要人発言と、ユーロ/円相場の方向感をしっかり確認していくことが、取引する上で肝要とみる。(ジェルベズ)

(予想レンジ: 125.50～134.00円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

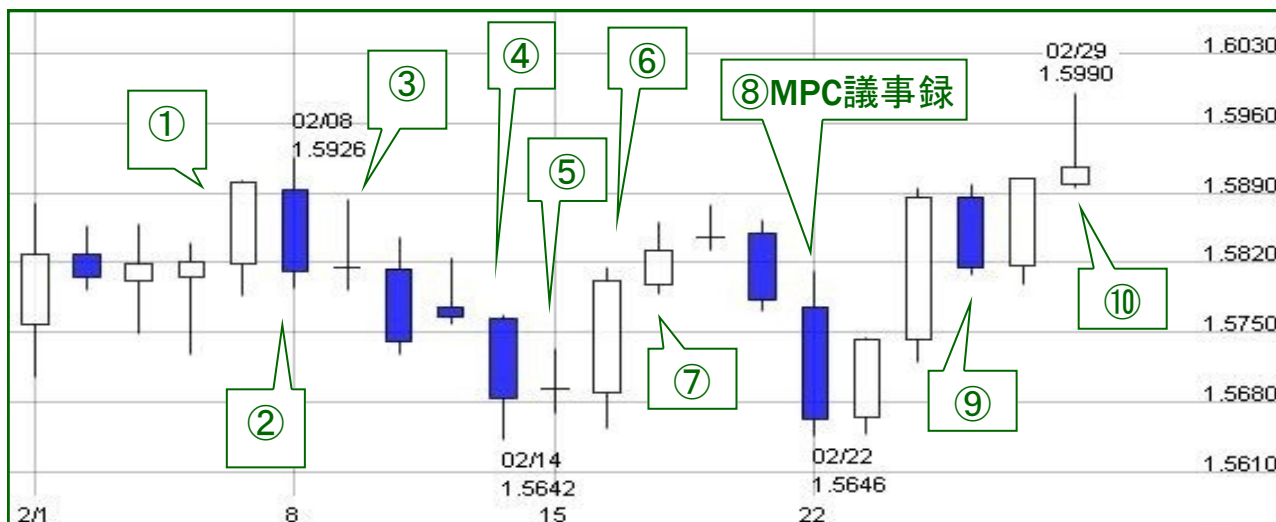
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	2月英PMI製造業	3/9(金)	2月米雇用統計
	2月米ISM製造業景況指数	3/13(火)	日銀金融政策決定会合(12日～)
	ユーロ圏首脳会議	3/14(水)	2月英雇用統計
3/2(金)	2月英PMI建設業	3/20(火)	2月英消費者物価指数
	EU首脳会議	3/21(水)	BOE議事録
3/5(月)	2月英PMIサービス業	3/22(木)	2月日通関ベース貿易収支
	2月米ISM非製造業景況指数		2月英小売売上高指数
3/7(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/27(火)	第4四半期英GDP・確報値
3/8(木)	ECB金融政策発表	3/29(木)	第4四半期米GDP・確報値
	BOE政策金利発表	3/30(金)	3月米シカゴ購買部協会景気指数
3/9(金)	1月英商品貿易収支		
	1月英鉱工業生産		
	2月英生産者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 2月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.5757ドル	1.5990ドル	1.5642ドル	1.5916ドル



①	7日、「ギリシャは救済策に関する合意文書草案の最終稿の作成を進めている」と報じられた他、ギリシャ連立与党の協議終了後に融資の詳細を発表するとの一部報道も重なる、支援合意は近いとの見方からユーロ/ドルが上昇。ポンド/ドルも連れ高した。
②	8日、英中銀(BOE)が9日の金融政策委員会(MPC)にて市場予想(500億ポンド)よりも大きく緩和拡大するとの観測が広がり、ポンドは下落した。
③	9日、一部で750億ポンドの資産購入枠拡大観測がある中、BOEが大方の予想通り500億ポンドの拡大を発表すると、1.5926ドルまでポンド高が進行した。
④	14日、格付け会社ムーディーズがイタリアなど6カ国を格下げした上、フランスなど3カ国の格付け見直しを引き下げ、ユーロ/ドルは下落。ポンド/ドルも連れ安し、1.5642ドルの安値をつけた。
⑤	15日、発表された英四半期インフレ報告では2年後のCPI上昇率は金利が市場予想通りなら1.8%前後となるなど、昨年11月の1.3%から引き上げた。これを受け、一時小幅にポンドは買われる場面もあった。
⑥	16日、複数の米経済指標の好結果が続き、NYダウ平均先物が上昇すると、ポンドも上昇した。ギリシャ政府筋から「ギリシャと国際支援機関は支援に必要な約3億2500万ユーロの歳出削減の具体策で合意した」と伝わったことも、この流れに拍車を掛けた。
⑦	17日、欧州勢がポンド買いで参入した上、英1月小売売上高指数が前月比+1.2%と予想(-0.3%)に反して良好な結果になったことで、ポンド/ドルは1.5861ドルまで値を伸ばした。しかし、米WSJ紙が「国際通貨基金(IMF)はギリシャ向け第2次支援における融資額を引き下げる可能性がある」と報じたことを受けてユーロ/ドルが失速すると、ポンド/ドルも連れ安した。
⑧	22日、英MPC議事録にて、決定された500億ポンドの資産購入枠拡大について、9人中2名が750億ポンド拡大すべきと主張していたことが明らかになると、追加緩和の思惑が台頭し、ポンドが急落。ギリシャのデフォルト懸念台頭でリスク回避の動きが強まると、ポンド/ドルは1.5646ドルまで値を下げた。
⑨	24日、欧州株が上昇した上、ギリシャ閣議で同国債務交換プログラムが承認されたこと、米2月ミシガン大消費者信頼感指数や米1月新築住宅販売件数が市場予想を上回り、米国株も堅調に推移する中、リスクを積極的に取る機運が高まり、ポンドは上値を迫る展開となった。
⑩	29日、ロンドン16時(日本時間25時)のフィクシングに向けたポンド買いで1.5990ドルまで上昇。しかし、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が「失業率は予想より速く低下」との発言を受けてドル高が一般的に進む中、すぐに上げ幅を縮めた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今月のポイント

2月のポンド/ドル相場は1.5642～1.5990ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.0%の上昇(ポンド高・ドル安)。この月のポンド/ドルは概ねユーロ/ドルに連れる展開だったが、ユーロ/ドルに比べるとポンド/ドルの上値は重かった。主な要因としては、英国の金融緩和が挙げられる。BOEは2月、資産購入枠を500億ポンド拡大した。さらに、議事録からは750億ポンド拡大すべきとする委員が2名(ポーゼン氏、マイルズ氏)いたことが明らかになり、追加緩和期待が台頭。これらによってポンド/ドルはユーロ/ドルに上昇幅で遅れを取るようになった。

今月のポンド/ドルについてだが、英国の資産購入枠については5月まではもつ見通しであり、すぐに追加緩和、というムードにはなりにくい。英国の要人発言や経済指標が大きくポンド相場を動かすような場面は先月に比べると少なくなってくるだろう。つまり、ポンド/ドル相場を主導するのはあくまでユーロ/ドルになる公算だ。この点については、米国の景気回復期待と欧州債務問題の動向の2軸で考えたい。月初の時点では米国の景気回復期待が広がっている。それを確認していく上で、各種経済指標の結果への関心が一段と高まるだろう。一方、欧州債務問題についてはギリシャの債務交換(期限:7日)が目標参加率(90%)を達成して同国債の大量償還(14日)を通過するまで、予断を許さない。また、これらが無事通過しても他の問題国へ目が向けば、再び欧州債務不安が市場の最大の関心になってくると考えられる。

また、テクニカル面も注視したい。月初の時点で長期的なトレンド転換を見る上で重要な200日移動平均線前後にポンド/ドルは差し掛かっている。ここから上値を伸ばし、200日線に下値を支えられるような展開になれば、実際に長期的にトレンドが上向きに変化した可能性がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.5650～1.6200ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
3/1(木)	2月英PMI製造業	3/9(金)	2月米雇用統計
	2月米ISM製造業景況指数	3/13(火)	2月米小売売上高
	ユーロ圏首脳会議	3/14(水)	2月英雇用統計
3/2(金)	2月英PMI建設業	3/16(金)	2月米消費者物価指数
	EU首脳会議		3月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
3/5(月)	2月英PMIサービス業	3/20(火)	2月英消費者物価指数
	2月米ISM非製造業景況指数	3/21(水)	BOE議事録
3/7(水)	2月米ADP全国雇用者数	3/22(木)	2月英小売売上高指数
3/8(木)	ECB金融政策発表	3/27(火)	第4四半期英GDP・確報値
	BOE政策金利発表	3/28(水)	2月米耐久財受注
3/9(金)	1月英商品貿易収支	3/29(木)	第4四半期米GDP・確報値
	1月英鉱工業生産	3/30(金)	3月米シカゴ購買部協会景気指数
	2月英生産者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。